

キャリア支援部門 (Career Services Office) 報告

国際教育交流センターキャリア支援部門
坂井 伸彰・大河内 薫子・竹下 利江子

はじめに

キャリア支援部門(以下、CSO)は、外国人留学生、G30国際プログラムに所属する学生、および海外留学経験のある学生のキャリア・就職支援を担当している¹。本稿では、CSOにおける平成27年度の活動について、「留学生のキャリア支援」、「個別就職相談」、「企業からの国際人材(外国人留学生・海外留学生等)の採用に関する調査」、「キャリア形成・就職活動支援の取り組み」に分けて紹介し、最後に今後の実践に対する課題を「まとめ」として述べる。

1. 留学生のキャリア支援に関する動向

文部科学省による「留学生30万人計画」²では、外国人留学生への就職支援及び雇用を促進することを目標としている。そして、平成28年4月に文部科学省より発表された「産業競争力会議」における「外国人材活躍推進について(外国人留学生の就職に関する課題等)」³では、外国人留学生の日本での就職者数は近年増加(平成26年12,958人:前年比1,311人増)しているが、就職を希望する留学生(平成25年度:約25,800人)のうち約半数、卒業(修了)した全留学生(平成25年度:39,650人)のうち約3割しか就職できていないものと推測している。なお、政府は「ニッポン一億総活躍

プラン」の一環として、全留学生に占める日本での就職率を現状の3割から5割に引き上げるため、ビザ審査の優遇措置や各大学でのインターンシップやキャリア教育に対する支援を強化する方針を打ち出した(平成28年6月2日閣議決定)。日本の人口が減少する中、留学生がわが国の成長を担う人材として注目を集めている証左と言えよう⁴。

わが国の大学では2011年よりキャリアガイダンスの導入が義務付けられたが、日本特有の就職活動及び企業文化への理解に戸惑いを覚える留学生も多い。従って、留学生の受け入れを積極的に推進する大学では、留学生に焦点を当てたキャリア支援に関する取組みを充実させる必要があると言えよう。その一方、守屋(2011)⁵が指摘するように、わが国の多くの大学では留学生に対する就職支援体制が確立できていないのが現状であり(本学を含め留学生に特化したキャリア支援を行ない始めた大学でも手探りの段階と言えるため)、キャリア教育の実践事例及びそれらの研究に関する量的・質的拡充が求められている。

2. 個別就職相談

平成27年度の学生からの個別就職相談件数は、計200件であった。前年度の相談件数48件と比べ大幅に上昇した。特に平成27年度の後期(10月以降)では173

¹ 平成27年度キャリア支援部門運営体制:部門長・町田健教授,担当教員・今井千晴特任講師(平成27年8月退職),コーディネーター・松代朋子(平成27年9月退職)／大河内薫子(平成27年10月着任),事務スタッフ・佐藤菜絵(平成27年6月退職)／竹下利江子(平成27年7月着任)から構成される。本報告代表者の坂井は、平成28年4月に今井特任講師の後任として本学に着任した。

² 文部科学省「留学生30万人計画」骨子(平成20年) <http://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/rireki/2008/07/29kossi.pdf> (平成28年5月30日閲覧)

³ 文部科学省「産業競争力会議第42回実行実現点検会合「外国人材活躍推進について(外国人留学生の就職に関する課題等)」(平成28年4月6日) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/jkagou/dai42/siryoul1.pdf> (平成28年5月30日閲覧)

⁴ 首相官邸「ニッポン一億総活躍プラン」(平成28年6月2日閣議決定) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/pdf/plan1.pdf>

⁵ 守屋貴司「日本の外国人留学生・労働者と雇用問題」(2011年3月)晃洋書房(86頁)

件の相談に応じるなど、翌年に控えた就職活動への準備を本格的に進める時期に伴い、学生からの相談が増加した。また、経団連の「採用選考に関する指針」において、2017年（平成29年）3月卒学生の採用試験の実施時期が再度変更されたため（採用試験の開始時期が、前年度より2ヶ月早くなった）、留学生はより正しい情報を入手するため、当部門への相談が増加したことが伺える。

主な相談内容は、就職活動の準備の進め方、エントリーシートの添削、面接試験の練習等が中心である。留学生に限らず日本人学生にも顕れる傾向だが、やはり本学留学生も、いわゆる大手企業や民生品を扱う（即ち彼らの母国でも馴染みのある）BtoC（Business to Consumer）企業への就職志望が強い。就職活動やキャリア選択では、自らの価値観を整理し、その価値観に適合し、自分を活かせる（貢献できる）と思える企業や職種或いは働き方や生き方を探していくものだが、CSOに相談に来る留学生は「知っている会社・聞いたことのある会社の中から、良さそうな会社を見つける」傾向が伺える。

この他に、「日本での就職に必要な日本語能力の目安を教えてください」という相談や（少なくとも日本語能力試験N2レベル以上を目指すよう助言）、学部2年生・3年生よりインターンシップへの参加に関する相談も寄せられている。（なお、日本では欧米と異なり、2週間以上の期間で実施するインターンシップは非常に少なく、最近では「One Day Internship」と称して企業説明会に近い形でインターンシップを実施している企業も多い。こうした事情を説明すると留学生たちは一様に驚くのだが、インターンシップを例に取っても、日本の就職活動は特異的と言わざるをえない。）

3. 国際人材（外国人留学生・海外留学生等）の採用に関する調査

平成27年11月に（翌年度の採用活動が本格化する前に）、当部門のスタッフが分担して愛知県内の企業を訪問し、留学生及び海外留学を経験した日本人学生など国際人材の採用に関するヒアリング調査を行った。その結果、「国籍を問わず（日本人・留学生の区別をせず）、採用活動を実施している」、「留学生の場合、コミュニケーションを問題なく図れる日本語能力が求め

られる」、「秋入社には対応していないが、入社までの半年間をアルバイト／インターンシップ生として受け入れることは検討できる」、「海外留学を経験した日本人学生は、積極的に採用したい」等の意見が寄せられた。CSOでは、これらの調査結果を企業側の「本音」として、就職活動に関する相談のために来訪する留学生に、必要に応じて伝えている。

4. キャリア形成・就職活動支援の取組み

表1は、平成27年度にCSOが主催した本学留学生を対象としたキャリア支援に関する取組みである。その中でも特筆すべき内容について、以下のとおり紹介したい。

〈グローバルキャリア探求プログラム〉

就職支援室との連携により、外国人留学生だけでなく、日本人学生も対象に、英語でガイダンス及びワークショップを実施した（平成27年度で4年目の開催）。今回は、内容を大幅に見直し、インターンシップへの参加を促すための全体ガイダンス（2015年5月13日実施）、工場見学（2015年6月24日実施）、キャリアデザインワークショップ等を実施し、延べ41名の学生が参加した。

〈留学生のための就職活動支援コース〉

本コースでは、日本語講師の加藤淳氏に担当いただき、計11回の講座（参照：表2）に、延べ95名の学生が参加した。最終回まで継続的に参加した学生の複数名は、就職活動が解禁となった平成28年3月以降も、当部門を継続的に訪れ、卒業・修了後の進路選択に関する相談を行っている。

〈留学生×中部経済同友会交流会〉

本交流会（平成28年1月20日実施）では、地元企業の経営者と本学の留学生が交流を図ることで、留学生が日本での就職や企業文化に対する理解を深めることを目的に開催されたものである。今年度は、留学生の参加を促すよう、以下の対応を行った。まず、留学生への広報活動を行なうため、前述の就職活動支援コースの講義において周知を図った。そして、本学教員には指導する留学生に本交流会を周知頂くよう協力を仰いだ。開催日直前には、再度本交流会の関係について

表1 平成27年度 CSO 主催事業一覧

No.	項目・事業名	時期	件数・参加者数
1	グローバルキャリア探求プログラム Lets make your own vision map	2015年5月13日	計10名
2	グローバルキャリア探求プログラム イチビキ工場見学	2015年6月24日	計12名
3	グローバルキャリア探求プログラム キャリアデザインワークショップ	2015年7月10日	計19名
4	留学生のための合同企業説明会 直前ガイダンス	2015年8月21日	計26名
5	留学生のための合同企業説明会	2015年8月24日	延べ57名
6	留学生のための 就職活動支援コース	2015年10月～2016年2月 毎週水曜日（11回）	登録25名 （延べ95名）
7	留学生×中部経済同友会 意見交換&懇談会	2016年1月20日	計54人
8	CSO × リクナビ 体験型 就活直前セミナー	2016年1月13日, 20日, 2月17日	延べ19名

表2 平成27年度 留学生のための就職活動支援コース

	実施日	項目	内容
1	10月14日（水）	オリエンテーション	外国人留学生の就活スケジュール / 自己点検 / 情報共有
2	10月21日（水）	自己分析Ⅰ	自己分析の実際 / キャリアパスを考える
3	10月28日（水）	自己分析Ⅱ	自己分析の実際 / キャリアデザインを描く
4	11月4日（水）	企業分析Ⅰ	企業分析の必要性和進め方 / 業界・職種研究
5	11月11日（水）	企業分析Ⅱ	企業分析の実際
6	11月18日（水）	応募書類準備Ⅰ	エントリーシート（ES）、履歴書の作成（形式と内容）
7	12月2日（水）	応募書類準備Ⅱ	ES、履歴書の作成（目的別）
8	12月9日（水）	マナー研修Ⅰ	面接（個人面接・集団面接）
9	1月13日（水）	マナー研修Ⅱ	グループディスカッション練習
10	1月27日（水）	グループディスカッション	グループディスカッション実践
11&12	2月24日（水）	模擬面接（スーツ着用）	面接練習の実践訓練 / 自己点検（13:00-16:00）

事前登録者にリマインドを行った。その結果、当日の参加者が54名（飛び込み人数を含む）となり、前年度の参加者数（計20名）より大幅に増加した。また、学生への事後アンケートの結果、より多くの業界・企業の話が聞きたいという要望が多数寄せられた。

5. まとめ

これらの活動を通じて当部門の取組みは着実に学内では定着してきたが、本学留学生の間では当部門の認知度は決して高い訳ではない。そして、平成29年3月卒業対象の選考試験が「山場」を迎える中（平成28年5月末時点）、就職活動のスケジュール等の情報が外国人留学生には十分に伝わっていない（即ち、就職活動に対する十分な準備が出来ていない）様子が、留学

生との面談を通じて伺える。

また、在籍留学生数に対し、各行事への参加者数が少数に留まる傾向がある。こうした傾向を改善するため、例えば、新入生が一堂に会する学期始めのオリエンテーションで、就職活動やCSO主催支援行事に関するスケジュールについて、積極的に情報を提供する必要がある。そして、留学生に自らの進路を早期に検討し、各種支援行事への参加を促すために、学内関連部門と連携の下、一連の支援活動を展開したい。

当部門は、平成28年3月より当部門が国際教育交流センター内のアドバイジング部門の傘下となった。このことから、留学生に対する各種ガイダンスやワークショップはこれからも開催するが、同部門の活動指針に従い、あくまで相談者一人ひとりの「個」を尊重し、各人の資質や能力を踏まえ、きめ細やかなアドバイジ

ングを行なうことを活動の中心としたい。キャリア支援に特化したアドバイジング業務を中心に、自己理解・職業理解を促し、自らが納得できるキャリアを選

択できるよう、相談者一人ひとりと向き合いながら、彼らの卒業後のキャリアを支援していく所存である。